

ARTS PRESSES

KANAGAWA



CREATOR'S VOICE 118 劇作家、脚本家、俳優、映画監督

三谷幸喜

「僕らとおなじ小市民が狂気に走る怖さ」
神奈川芸術劇場<KAAT>『国民の映画』を演出

4月のKAAT大スタジオ公演から
前川知大(劇作家、演出家、劇団イキウメ主宰)に迫る
ぬくもりのある木のホール「神奈川県立音楽堂」

三谷幸喜

Koki Mitani 劇作家、脚本家、俳優、映画監督

僕らとおなじ小市民が狂気に走る怖さ

みずから生誕50周年企画「三谷幸喜大感謝祭」と銘打ち、映画・演劇・テレビ・小説で合計7本の新作を今年発表する三谷幸喜。

そのなかで唯一、自分発信の企画として打ち出されるのが舞台『国民の映画』。ドイツ第三帝国時代を背景に、ナチスの宣伝大臣ヨゼフ・ゲッベルスとそのまわりの人々のドラマが描かれるこの群集劇は、希代の「喜劇作家」にしては珍しいモチーフだ。作家の着眼点はどこにあるのか。三谷自身にその目論みを聞いた。

—喜劇作家として知られる三谷幸喜さんが、ドイツ第三帝国の物語を書くとき聞いて驚かれた方も多と思います。いつ頃からナチスの芝居を書きたいと思われていたのでしょうか。

ヒットラーの存在を最初に知ったのは、水木しげるさんが書かれた漫画『劇画ヒットラー』を小学生時代に読んだとき。なんで読もうと思ったのかはいまではまったく覚えていませんけど、読み終えて非常に描かれている世界に興味をもった覚えがあります。なににいちばん惹かれたかというところ、そこにいたヒットラーの側近たちの個性豊かさ。ゲッベルスやヒムラーやゲーリングの、変な言い方ですけど「キャラクターの濃さ」がとても魅力的に思えた。おそらくこの人たちはヒットラーという人間に出逢わなければ、普通の人として人生をまっとうしたんだろうな。でもたまたまヒットラーのそばにいたから、狂気の世界に巻きこまれてしまったんだろうな。そんなことを思うと、子ども心にもグッときた。それからいろいろな本を読んだり映画を見たりするようになり、こういう仕事に携わるようになってからは「いつかゲッベルスの芝居をやりたい」と思うようになっていました。

—なぜ「プロパガンダの天才」として知られたナチスの宣伝大臣ヨゼフ・ゲッベルスに、特に興味を持たれたのでしょうか。

さまざまな側近のなかでも彼がいちばんインテリだったり、もともと小説家志望だったということもあり、昔から興味を持っていたんです。あと一昨年、みず書房から刊行された『映画大臣—ゲッベルスとナチ時代の映画』という本を読んだことも大きかったです。そこで彼のいちばん好きな映画が『風と共に去りぬ』だったということを知った。これはおもしろい、と思いましたね。



つまりもともと僕は、普通な人が狂気に走る話を書きたいと思っていたから、大作娯楽映画好きだったゲッベルスという人物像から、物語を膨らませていけたらいいなと思ったんです。

—三谷さんはナチスに荷担した人物たちを、血も凍るような悪人としてでなく、ふつうの小市民として描きたいわけですね。

そうです。何年前に『ヒトラー～最後の12日間～』(2004年)という映画が上映され、ヒトラーを絶対悪としてでなく、悩める苦悩者として描いて賛否両論を呼びましたよね。でも僕はもちろん賛だった。なぜかという、生まれながらに悪人だった人が悪いことをしたという話じゃぜんぜん怖くないんです。そうじゃなく、僕らと同じような町に住んでいた同じような人が、たまたま特殊な状況に置かれたために狂気に走ったという描き方をしないと本当の恐ろしさは伝わらない。だから今回の作品でも、僕らとなんら変わらない普通の小市民たちとしてナチスの人々を描いています。

—確かに本作で取り沙汰される出来事は、ゲッベルスのまわりの女性問題であったり、信念と金のどちらを選んで生きていくかという倫理問題であったり、あまりここから遠い話に思えません。

ええ、そうなんです。ただやっぱり、ナチス、ヒトラー、ユダヤ人といったことを完全に無視して物語を紡ぐわけにはいきません。ですからもう少し深い問題も入ってきます。ただ、これは脚本を書いてわかってきたことなんですけど……、いきなりぼんっと「ヒトラー」という単語がセリフのなかに入ってくると、ものすごい嘘くさく感じるんです。急に遠い世界の絵空事になってしまう。

だから可能な限り今回は、そういう象徴的な言葉を使わずに本を完成させました。ヒトラーという言葉も、ナチスという言葉も、役者は一度も使いません。そのうえで、ユダヤ人の問題を弱者の立場から描き込んでいきました。つまり差別した権力者サイドからではなく、差別された側とか差別を見て見ぬふりをした人側から描きました。大河ドラマ『新選組!』をやったときもそうだったんですけど、僕はどうしても強者の立場から物語を眺めることができないんです。それはなぜかというと「もしもこんな非力な僕があつた時代に生きていたら」という発想からいつも台本を書き始めるから。あえて視線を落とすことで、ようやく書きたいことが見えてくるんです。

—とはいえ近藤勇ならまだしも、今回はヨゼフ・ゲッベルスですから。どこまで視線を落として「普通の人」として描くか、悩まれたのではないかと思います。

そうなんです。こんなにチャーミングで愉快なゲッベルスにしていいものか、と悩んだ時期も正直ありました。本当に稽古場で小日向(文世)さんが演じてくださると、どんどんゲッベルスがチャーミングになっていくので。でもいまは吹っ切れて、こんな中小企業の社長みたいなおじさんが実はヨゼフ・ゲッベルスで、だからこそ怖ろしいことに手を染めたときにビックリする、というふうに物語をもっていければと考えています。普通の世界の小市民たちがとんでもない悪を為す。その感覚をお客さんにわかってもらうことは、実はとても大切なことなんじゃないかと思っています。

取材・文 岩城京子/神奈川芸術劇場クリエイティブパートナー
写真 大野純一



三谷幸喜(劇作家、脚本家、俳優、映画監督)
Koki Mitani

1961年生まれ。東京都出身。A型。
日本大学芸術学部演劇学科卒業。在学中の83年に劇団“東京サンシャインボーイズ”を結成。劇団は94年度の公演から30年間の充電期間に入っている。以降、脚本家として数多くのテレビドラマを執筆、近年は映画監督も手掛け、精力的に活躍。
今年2011年は、三谷幸喜50歳の節目の年ということで、1年間を“三谷幸喜大感謝祭”と銘打ち、映画・演劇・テレビ・小説の各ジャンルで計7本の新作を発表する。舞台『ろくでなし啄木』、舞台『国民の映画』、舞台『ベジ・パードン』、テレビドラマ『ウォーキング・トーキング』(WOWOW)、書き下ろし時代小説『KIYOSU』、映画『ステキな金縛り』、舞台『90ミニッツ』。

ヘアメイク 立身恵

KAATオープニングラインナップ

『国民の映画』

4月20日(水)～5月1日(日)

神奈川芸術劇場<KAAT>ホール

作・演出:三谷幸喜

出演:小日向文世、段田安則、白井晃、石田ゆり子、小林勝也、シルビア・グラブ、新妻聖子、

今井朋彦、小林隆、平岳大、吉田羊、風間杜夫

チケット料金:S席9,000円～B席4,500円 他

Web予約 URL <http://www.kaat.jp/>(24時間)

☎045-662-8866(チケットかながわ:10時～18時)



COLUMN

今月の小コラム

三谷幸喜さんにQ&A

—横浜で、映画の撮影をなさることが多いと聞きました。

『THE有頂天ホテル』(06年)の撮影をホテルニューグランドでやりました。あと今秋公開される『ステキな金縛り』という映画の一部を、KAATの近くにあるフレンチレストランで撮りました。天井が高い部屋に円柱がいっぱい立ってて、おもしろい場所だなと思って借りたんですよ。でも結局そのお店は、撮影用に内装を変えてインド料理屋にしちゃったんですけど。

—なにか横浜にまつわる良い思い出はありますか?

昔、駆け出しの放送作家時代に、大晦日に氷川丸の上で『お笑い百八つ』という番組を撮影したんです。僕はまだ23歳ぐらいの新人ですから本当にその場に立ち会うだけで、なにもすることがない。しかも生放送が終わってみんな撤収したあとに、ひとり氷川丸の上に取り残されてしまった。大晦日の日ですから、気づけば外は大変な人混みで、駅まで辿り着くのも一苦勞で。結局、一晩かけて家によく辿り着いた。そんな横浜にまつわる懐かしい思い出があります。

4月のKAAT大スタジオ公演から 前川知大(劇作家、演出家、劇団イキウメ主宰)に迫る



イキウメ 「散歩する侵略者」2007年公演より



前川知大(作・演出) Tomohiro Maekawa

1974年生まれ、新潟県出身。劇作家、演出家。

活動の拠点とする「イキウメ」は2003年に結成。

市民生活の裏側に潜むセンス・オブ・ワンダーを描く。

主な脚本・演出、『図書館的人生』『関数ドミノ』『奇ッ怪』

『見えざるモノの生き残り』『狭き門より入れ』『表と裏と、その向こう』など。

著書に小説『散歩する侵略者』、コミック原作『リビングストーン』(漫画:片岡人生)など。

第16回読売演劇大賞優秀作品賞、第16回～第18回読売演劇大賞優秀演出家賞、

第44回紀伊國屋演劇賞個人賞、第60回芸術選奨文部科学大臣新人賞、

第14回鶴屋南北戯曲賞など受賞。

柿落としの『金閣寺』やチェルフィッチュをはじめに
大好評のスタートを切ったKAAT。

引き続き華やかなラインナップが続き、

4月から7月にかけては、三谷幸喜作・演出の

『国民の映画』、注目の若手劇団イキウメの

『散歩する侵略者』、芸術監督・宮本亜門による

連続演出ミュージカル『太平洋序曲』

『スウィーニー・トッド』と話題作が目白押し。

今回ご紹介する前川知大さんは、イキウメの

作・演出・主宰。30代半ばだが、読売演劇大賞や

紀伊國屋演劇賞、芸術選奨新人賞、そして今年は

鶴屋南北戯曲賞と、大きな賞を連続受賞している。

しかしそれ以上に作品の魅力を物語るのが、

俳優にファンが多いこと。佐々木蔵之介、市川亀治郎、

大杉蓮ら、鋭いアンテナを持つ実力派が、こぞって

一緒に仕事をしたがる新進気鋭のアーティストだ。

ごく普通のコンビニや静かな地方都市など、ありふれた
風景の中で、異世界が粛々と拡大していく。非日常が
ゆっくりと日常を侵食するその境目で、拒否か適応か、
戸惑う人間達。かっちりした理系の枠組みと、割り切れ
ない心理描写を両立させて、前川作品はベテラン劇評家
からも、演劇ビギナーからも、人気が高い。

「初めてお芝居を観てきた人のことは、作品をつくる
時にいつも意識しています。ただ、そこにばかり照準を
合わせてしまうと、話がわかりやすくなり過ぎてしまう。
たとえ初めてでもコアな物語が好きなのもいますし、もち
ろん、僕らの作品を何度も観てくださってる方もいる。
そこらへんの匙加減は考えていて、初めてお芝居を観た
人がギリギリわかるぐらい、を目指しています。“どうい
うことだろう?”と考えていたことがスッとわかると快感
じゃないですか。それは大切にしたいと思うんです」

主宰する劇団イキウメは小劇場を中心に活動して
いるが、こうした采配は、不特定多数を想定したプロ
フェッショナルのもの。そのあたりも人気の秘密だろう。

「そうは言っても、全部の作品でそれが出来ているか
と言うと、実は違うんですが(笑)」

と照れて笑うが、4月にKAATの大スタジオでプレ
ビュー公演を開け、その後4都市を回る『散歩する侵略
者』は、自他共に認める代表作。

「いろんなこととのバランスが上手くいったんでしょうね。
読み返すと“あれ?”と思うところもあって(笑)、決して
丁寧な本ではないんですけど、密度と勢いはある。でも、
ある種のセオリー通りにつくられた、整合性がきちんと
取れた作品がおもしろいかというと、必ずしもそうでは
ないんです。説明されていない事柄があって、なのにポン
と重要なシーンに飛んでしまって、それでも観てると
わかることは、演劇にはよくあるんですよ。お客さんが

神奈川芸術劇場(KAAT)公演情報(4月～)

「国民の映画」 4月20日(水)～5月1日(日) ホール

作・演出:三谷幸喜

出演:小日向文世、段田安則、白井晃、石田ゆり子、シルビア・グラブ、

新妻聖子、今井朋彦、小林隆、平岳大、吉田羊、小林勝也、風間杜夫

全席指定:S9,000円 A6,500円 B4,500円

イキウメ「散歩する侵略者」 4月23日(土)～24日(日) 大スタジオ

作・演出:前川知大

出演:浜田信也、盛隆二、岩本幸子、伊勢佳世、森下創、窪田道聡、大窪人衛、加茂杏子、安井順平

全席指定:前売3,800円(当日4,000円)

「太平洋序曲」 6月17日(金)～7月3日(日) ホール

演出:宮本亜門 作詞・作曲:スティーブン・ソンドハイム

「スウィーニー・トッド」 7月9日(土)～10日(日) ホール

演出・振付:宮本亜門 作詞・作曲:スティーブン・ソンドハイム 出演:市村正親、大竹しのぶほか

「ロッキーホラーショー」 12月 ホール

演出:いのうえひでのり

■チケット・お問い合わせ

URL <http://www.kaat.jp/>(24時間) ☎045-662-8866(チケットかながわ:10時～18時)

※U24チケット、高校生以下割引、シルバー割引あり(詳細はHPかお問合せ)

KAATを支えるクリエイターたち

#5
蔭山陽太
(支配人)

いよいよオープンを迎えたKAATで、支配人というポジションを務める蔭山陽太さん。劇場内部、アーティスト、観客、さらに地域の人々とのより良いコミュニケーションを探りながら、名前の通り、陰となり日向となって“演劇の効用”を広めている。

想像を働かせて補完してくれるから。この作品は小説にもして、そっちでは(説明不足だと思った部分)書き込んだんですけど、舞台ではあえてそのままにしています」

静かな地方都市で起きた陰惨な殺人事件の陰に、宇宙人の地球侵略計画があった。ただその計画は、SF映画のように派手な武力によるものではなく、静かで思いもかけない方法を取るのだった。外見のダメージは皆無だが、侵略された前と後で決定的に違う、その方法とは――。2005年の初演時には、斬新なアイデアによるおもしろさが一気にクチコミで広がり、07年の再演では劇場を拡大、初めての地方公演にもこの作品で出かけた。

「相手の概念を奪うというアイデアを思いついて、その方法とかストーリーの展開をどんどん考えていった時に、ラストシーンで悩んだんです。で、あるアイデアを発見して“これはおもしろいんじゃないか”と興奮して、劇団員に喋りまくった覚えがあります。みんなも“それ、絶対におもしろい!”と言ってくれたので、張り切ってプロットを書いて台本も書きました。でもやっぱり、本当におもしろいかどうかはお客さんの前でやってみないとわからないんですけど」

前述のように前川は、劇作家としても演出家としても、知名度の高い俳優、また、さまざまな劇場やプロデューサーに作品を依頼されることが多い。だが9年目を迎える劇団は、かけがえのないホームグラウンドであり、つねに活動の基軸としている。

「今度この作品を上演するとしたら、どんな形がいいだろうとずっと考えていたんです。ありがたいことに、この作品を好きな演劇関係者がたくさんいらして『『散歩』はよく脳内キャストするんだよ』という声を聞いていたし、僕自身もそうでしたから。実はちょっと前まで、次はプロデュース公演で、僕が映像で観て興味を持った役者さん達と一緒に、とも思っていたんです。でもいま、劇団への気持ちがどんどん強くなっていて、劇団の役者をもっと良く見せたいし、劇団の総合力みたいなものをきちんと打ち出すチャレンジをしよう。また、この数年の間に劇団の俳優の入れ替わりもあって、そのままの本でやるのは難しいことがわかりました。なので新作の時以上に稽古に時間をかけて、現在の劇団員に合わせて、個々のキャラクターを書き直そうと思っています」

このインタビューの日、初めてKAATを訪れた。

「さっき大スタジオを見せてもらったから、舞台機構がかなりいろいろと応用が利くことがわかりました。それと、本番前に実際の劇場で稽古ができるのがうれしいですね。つくり手にとって、それは何ものにも代えがたい贅沢ですから」

貴重な才能が新しい場所を得てどんな刺激を受けるのか。今後のさらなるタッグに期待が高まる。

(取材・文 徳永京子)

一支配人と館長、芸術監督の、仕事の内容の違いを教えてくださいませんか？

劇場によっても仕事の範囲は違いますが、KAATに関して申し上げますと、劇場に來場されるお客さま、公演で劇場を使用される方、ご近所の皆さんに向けての、劇場の窓口の代表が支配人といえ早いでしょ。クレームはほとんどすべて私が受けます。とはいえ、制作から上がった案件についての決裁もしますから、内部を向いた仕事もあります。ちなみに館長は県民ホール本館と合わせた全体の運営についての責任者で、芸術監督は演目の決定など芸術的な面をディレクションします。

一劇場に対して立場が異なる皆さんと、それぞれに交流されるわけですね。

ですから、経験がまったくないと戸惑うかもしれません。私は前職が松本市のまつもと市民芸術館の支配人でしたが、劇場の建設にあたって反対運動もあり、当初は地域の方の理解がなかなか得られず、苦労しました。でも、反対する方の話をよく聞くと「どんなふうにするのか」を気にされていて、むしろ関心が強いことがわかりました。それでプログラムの内容や劇場の構造などを丁寧に説明し、疑問をひとつずつ解消するように努めました。今ではとても愛される劇場になっています。また、民間の劇団の制作をしていた時期は、1年の大半が地方公演で、全国の劇場はほとんど回りました。その時に各地の方と直接お会いし、地方で演劇を待っていてくださる方の



蔭山さん命名の劇場図書館BOOKAAT(ブックアート)。写真中央のラグマット上でも蔵書を自由に楽しめる。

気持ち、逆に、東京との温度差などを肌で感じました。—そうした経験から得た、いまの仕事に最も役立っていることは何でしょう？

基本にしているのは性善説です。演劇や音楽や美術を好きな人に悪い人はいない、そこから物事を考えていますね。たとえば、仕事終わりにお芝居に行く予定のある人が、うれしくて会社でニコニコしている。周りの人も何だか気分がいいじゃないですか。僕はそれが“文化芸術の波及効果”だと思っています。入場者数や稼働率には反映されませんが、たくさんの人をいろんな形で幸せにする、劇場の大切な役割です。

—今後、KAATはどんな劇場を目指しますか？

この時代に、これだけの施設ができたことが奇跡のようなもの。せつかく充実した器があるのですから、官か民かの二択ではない、新しい公共劇場のあり方を示していきたいですね。

(取材・文 徳永京子)

劇場のフロアガイドなど、施設案内はホームページで! <http://www.kaat.jp/>

神奈川芸術劇場<KAAT>からのお知らせ

神奈川芸術劇場<KAAT>開館記念式典 開催

1月11日(火)、神奈川芸術劇場の開館記念式典が行われた。公募で招待された県民を含む約800人がKAATに集い、近藤誠一・文化庁長官など来賓の方々からもご祝辞をいただいた。

松沢成文・神奈川県知事は「素晴らしい劇場の開館記念式典に臨むことができ、心躍る思いであり、これまでに尽力いただいたすべての皆様に感謝します」と挨拶。宮本亜門・芸術監督は「KAATをハブ(拠点)にして『3つをつくる』というミッションを広げていきたい。きょう産声をあげた劇場が素晴らしい大人に成人し、訪れる人を幸せにできるよう努力する」と抱負を語った。眞野純・館長は謝辞の中で「県の文化芸術の広域拠点として、現代社会に対応する社会的機能を持ち合わせた劇場に」との願いを述べた。

後半は、舞台開きを祝う能楽『翁』が、観世清和の翁、野村萬斎の三番叟で上演され、式典を華やかに締めくくった。



野村萬斎(三番叟)

桜に注目!

和の心を象徴するたしかな存在。そして目と心にやさしい淡い色彩、春の訪れを告げる桜は日本の四季になくはならない花。たくさんの人が集まる名所や街の人に愛される並木道自分だけの秘かなポイントなどで美しい風景を愛でる季節の到来です。



小田原城址公園
小田原城天守閣やお堀などを背景に、約350本のソメイヨシノが咲き誇る。桜まつりの期間中はライトアップも行われる。小田原駅から徒歩10分。
©小田原市観光協会

頼朝公の肝いりで生まれた見事な参道 桜のトンネルが美しい春の段葛

鶴岡八幡宮の参道として多くの人が行き交い、鎌倉のメインストリートとして有名な若宮大路。当初は由比ガ浜にあった八幡宮を現在の地に遷したのは源頼朝公であり、その際に京都の朱雀大路を模して敷設したと伝えられる。中でも二の鳥居から八幡宮入り口となる三の鳥居まで続く段葛は、頼朝公が妻である政子の安産を祈願して造営したという参道。その両脇に多くの桜が植樹されたのは大正時代の中期であり、もうすぐ100年を迎える。

誰もが知っているあの歌も小田原生まれ 白秋の足跡を辿る人気スポットも多数

小田原に縁のある作家は多いが、詩歌集や童謡の作詞など多くの作品を残した北原白秋もその一人。大正中期(1918年)に小田原へ移り住んだ彼は、東京へ移住するまでの約8年間に「からたちの花」「この道」「あめふり」「待ちぼうけ」といった名作や、「まごあ・ぐうす」(翻訳)などを発表している。白秋の散歩道や名作誕生にまつわる場所は観光名所となっているが、小田原城周辺の見事な桜も彼の目を楽ませたことだろう。

広重の名画に描かれた静かな古寺 絵の中から鐘の音が響くような佇まい

名作浮世絵集『東海道五十三次』の作者である歌川広重は、現在の横浜市金沢区などにあたる地域の風景を題材に、『金沢八景』と題した八枚の浮世絵集を刊行。そのうちの一枚である『称名晚鐘』には、約150年前の称名寺と周囲の佇まいが描かれ、春になると見事な桜で彩られるこの地が、かつては静かで落ちついていたことを伝えてくれる。広重独特の鮮やかな青色が海を描くこの作品を眺めながら、やはり春には桜が満開だったろうかと思いをはせるのもいい。

(オヤマダアツシ)

>PICK UP

鶴岡八幡宮・若宮大路段葛

古都鎌倉の象徴として名高い鶴岡八幡宮。鎌倉駅から八幡宮に向かう「若宮大路」の中央に石を積み上げて作られた約500mの参道「段葛」は、ソメイヨシノ、ヤエザクラなど約350本の桜が植えられ、見事な桜並木が堪能できる。
お問合せ: ☎0467-22-0315

神奈川県立近代美術館 鎌倉

八幡宮境内にある「神奈川県立近代美術館 鎌倉」では、開館60周年を記念して「ザ・ベスト・コレクション 近代の洋画」を開催。
4月9日(土)~10月10日(月・祝)
開館: 9:30~17:00(入館は16:30まで)
月曜休館(祝祭日にあたる時は開館・翌日が休館)
観覧料: 一般700円、20歳未満・学生550円、65歳以上350円、高校生100円
お問合せ: ☎0467-22-5000

小田原桜まつり

写真の小田原城址公園を中心に、桜の開花期間中開催。期間中はぼんぼりに灯がともされ(点灯時間18~22時)、天守閣、銅門のライトアップと合わせ、美しい夜桜を楽しむこともできる。市内では、他にも樹齢340年以上といわれる長興山のしだれ桜や沼代桜の馬場など、桜の名所が数多くあり、多くの観光客でにぎわう。
お問合せ: 小田原市観光協会
☎0465-22-5002

称名寺・神奈川県立金沢文庫

京浜急行線・金沢文庫駅から徒歩約10分。鎌倉時代に北条実時によって建てられた横浜市金沢区の称名寺は、季節の花々が咲き誇り、桜の名所としても知られる。隣接する「金沢文庫」は、称名寺に伝わる美術工芸品や古文書などを収蔵する中世歴史博物館。定期的に特別展が行われている。
神奈川県立金沢文庫
月曜休館(祝祭日にあたる時は開館・翌日が休館)
観覧料: 成人250円、20歳未満及び学生150円、65歳以上及び高校生100円。
特別展は別途料金。
お問合せ: ☎045-701-9069

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 演奏会案内

第271回定期演奏会

4月23日(土) 14:00開演

指揮: 金聖響 マーラー/交響曲第7番「夜の歌」

第272回定期演奏会

5月28日(土) 14:00開演

指揮: 金聖響 マーラー/交響曲第9番

横浜みなとみらいホール 大ホール

S6,000円 A4,500円 B3,000円 学生(B)1,000円

シニア(70歳以上)は各席種2割引

お問合せ: 神奈川フィル・チケットサービス

☎045-226-5107(平日10:00~18:00)

<http://www.kanaphil.com/> ※未就学児童のご入場はご遠慮下さい。

県立神奈川近代文学館 企画案内

没後15年 遠藤周作展 —21世紀の生命のために—

遠藤周作(1923~1996)は、「海と毒薬」などの作品で、罪や神といった存在に無感覚な日本人の意識を鋭く抉る一方、キリスト教徒として、日本人が違和感なく心を委ねることのできる神の姿を生涯追求めました。

本展では没後15年のこの機会に、遠藤の先見的な宗教観を通して、混迷する21世紀の人びとのために、時代を超え、投げかけられるメッセージの意味を問ひかけます。

4月23日(土)~6月5日(日) ※休館日は5月2日を除く毎月曜日

大人600円/65歳以上、20歳未満及び学生300円

高校生100円、中学生以下は入場無料

神奈川近代文学館 第2、3展示室

〒231-0862 横浜市中区山手町110 ☎045-622-6666

<http://www.kanabun.or.jp/>

ぬくもりのある木のホール

神奈川県立音楽堂

音楽家の息づかいまで聞こえるホールに、あらためて注目を。

桜木町駅やみなとみらいエリアのにぎやかな雰囲気を経て、紅葉坂を上って閑静な住宅街へと向かう途中、57年もの長い間、横浜の音楽シーンを作りあげてきた殿堂がある。1954年に開館した「神奈川県立音楽堂」は、独特のあたたかい雰囲気によって多くの音楽ファンに素晴らしい演奏を伝えてきたコンサートホール。その一方で、ル・コルビュジェの美学を継いだ前川國男の設計による、昭和モダニズムの香りを残した建築物としても注目を集め、若い世代の建築ファンからも熱い視線が注がれている。

ホールの中に入ってみると、木に囲まれた懐かしさとぬくもりのある光景が広がり、だからこそ感じる音楽の心地よさにホッとします。約1,000席という空間はステージの演奏がストレートに客席へ届く広さであり、1.5秒という残響時間もたらずアコースティックは音楽の輪郭をゆがめることがない。ピアノやヴァイオリン、弦楽四重奏等の室内楽は演奏家の息づかいまで伝わってくるほどであり、繊細で絶妙な表現も聴きとれる距離だ。バロック音楽等で使われる古楽器の素朴さ、合唱や声楽における言葉のニュアンス、さらにはフル・オーケストラの圧倒的なエネルギーもダイレクトに味わえる。

こうした音響および雰囲気の良いがこのホールの特徴であり、館名とペアで表記される「木のホール」というシンプルなスローガンが、誇りと共にそれを表明していると言えるだろう。さらにはステージと客席の距離が近いことで、音楽家が聴衆の熱気を感じとり、ひとまわり大きな熱演が生まれるという理想的な循環も、音楽堂ならではの素晴らしいさだ。来演した海外の著名なアーティスト達にも評判が良く、客席の雰囲気に対する印象も好評。まさに「みんなで音楽を創造できる殿堂」だということが証明されるだろう。耳の肥えた音楽ファンの中には「同じアーティストを聴くなら、ステージが近くリアルな演奏が味わえる音楽堂で」という人も少なくない。音楽に挑む演奏家や歌手の姿に感動することも、ライブの醍醐味なのだ。

こうした独特の雰囲気を味わいたいという音楽ファンも多数。クラシック音楽ビギナーが楽しめるコンサートから「ヴィルトゥオーゾ・シリーズ」をはじめとする一流アーティストの本格的リサイタルまで、幅広い内容の演目が並ぶ中、好みに合わせてコンサートを選べるだろう。
 (オヤマダアツシ)



前川國男の設計によるモダンな外観

©青柳聡



光があふれる開放的なロビー

©青柳聡

ミュージカルの楽しさを、オーケストラのライブで体感!

クラシックな休日をも ♪ in 音楽堂

藤岡幸夫指揮

神奈川県立音楽堂

特別演奏会

4月16日(土) 15:00開演

バーンスタイン/「キャンディード」序曲

「ウェストサイド・ストーリー」より

二重唱『トゥナイト』

(ソプラノ:坂井田真実子、テノール:樋口達哉)、

管弦楽『シンフォニック・ダンス』

プロコフィエフ/

「ロメオとジュリエット」より

全席指定 一般4,500円

学生券(24歳以下)2,000円

特別ペア券売切



音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ第6弾

ピリスとともに過ごす至福の2日間

マリア・ジョアン・ピリス ソロ・リサイタル

〈オール・ショパン・プログラム〉

5月7日(土) 16:00開演

8つのノクターン、3つのマズルカ、幻想曲へ短調、幻想ポロネーズ

ピリス×ゴムツィアコフ(チェロ)

デュオ・コンサート

5月11日(水) 19:00開演

ベートーヴェン/チェロ・ソナタ第3番、ピアノ・ソナタ第30番ホ長調

J.S.バッハ/無伴奏チェロ組曲第2番

ブラームス/チェロ・ソナタ第1番

全席指定 各日一般7,000円

シルバー(65歳以上)6,500円

(5/7のシルバーは売切)

学生(24歳以下)3,000円

両日一般券のセット12,600円



音楽堂ヴィルトゥオーゾ・シリーズ第7弾

音楽堂の親密な空間で聴く至高のバッハ

フィリップ・ヘレヴェッヘ指揮

コレギウム・ヴォカール

6月5日(日) 15:00開演

J.S.バッハ/ミサ曲 口短調

ドロテー・ミールズ(ソプラノ)

ハナ・ブラシコヴァ(ソプラノ)

ダミアン・ギヨン(カウンターテナー)

トーマス・ホップズ(テナー)

ペーター・コーイ(バス)

全席指定

一般9,000円

シルバー・学生売切



© Eric Larrayadieu

主催:神奈川県立音楽堂 (指定管理者:公益財団法人神奈川県立芸術文化財団) <http://www.kanagawa-ongakudo.com/>

チケットの
お求めは

インターネットチケット予約(24時間受付)

<http://www.kanagawa-arts.or.jp/tc/>

チケットかながわ 045-662-8866 (電話10:00~18:00)

(県民ホール窓口10:00~18:00 / 芸術劇場窓口10:00~18:00 / 音楽堂窓口13:00~17:00月休)

WHAT'S ON? 06

横浜・山下町周辺のアート、コンサート、イベント情報ピックアップ

① 横浜能楽堂



建築史上、能楽史上貴重な、関東地方現存最古の能舞台を復元。
毎月第2日曜に行われる「横浜狂言堂」や能楽公演、講座に加えて、常設展が公開されている。
有料公演時を除き、2階から本舞台を見学することもできる。
開館時間：9:00～22:00(見学は20:00まで)
不定休(月1～2日程度の施設点検日は休館)
お問合せ：☎045-263-3055

② 神奈川県民ホール／神奈川芸術劇場(KAAT)



オープンシアター2011
親子で気軽に楽しめるコンサートや、舞台の裏側を探検するバックステージツアーなど、KAATと県民ホールを身近に感じられる催しが満載。その他、県民ホールギャラリーでも楽しいイベントを開催！
4月30日(土)開演 11:00～ / 14:00～
音楽物語：プロコフィエフ「ピーターと狼」&カバレフスキー組曲「道化師」 県民ホール大ホール
料金：全席指定 一般(高校生以上)1,000円、子ども(4歳～中学生)800円、親子券1,500円
パイプオルガン・プロムナード・コンサートvol.303(オルガン見学付) 県民ホール小ホール
入場無料(要予約) 全席自由 年齢制限なし
お問合せ：チケットかながわ ☎045-662-8866 ※イベントなどの詳細はホームページで発表。

③ 野毛地区一帯



第37回野毛大道芸
4月23日(土)・24日(日) 11:00～16:00 小雨決行
街おこしのために企画された「野毛祭」を前身とし、25年の歴史を持つ「野毛大道芸」が今年も開催される。
地区内の道路を閉鎖して15ステージ前後を設営。国内外約40組のパフォーマー達が妙技を披露する。
お問合せ：野毛大道芸実行委員会 ☎045-262-1234

子どもたちに大人気の風船太郎さん



森さんぽ 6

森日出夫さん撮影の写真でめぐる横浜散歩

大岡川 桜まつり

桜木町駅(JR根岸線)から徒歩約5分、日ノ出町駅(京浜急行線)を出てすぐの大岡川は、約800本の桜並木が咲き乱れる。写真は川面に映る桜までもとらえようとカーンから撮影したもの。2011年の桜まつりは4月2日(土)、3日(日)をメインに行われ、プラスバンドなどのイベントを楽しむことができる。開催時間：概ね11:00～16:00。
3月19日～4月10日ぼんぼりの点灯あり。
お問合せ：実行委員長 一ノ瀬成和 ☎090-3680-5501



県内のアート情報はここで探そう！

<http://www.kanagawa-at.info/> 「かな@」で県内のアート情報を検索できます。

STEVEN ISSERLIS CELLO RECITAL

スティーヴン・イッサーリス チェロ・リサイタル
ピアノ：サム・ヘイウッド

主催：KAJIMOTO
後援：プリティッシュ・カウンスル 協力：株式会社 東京エムプラス

2011年 5/18(水)19:00 紀尾井ホール

シューマン：幻想小曲集 op.73
ショパン：チェロ・ソナタ 短調 op.65
ユリウス・イッサーリス：バラード
ラヴェル：2つのヘブライの歌(イッサーリス編)
プーランク：チェロ・ソナタ

全席指定 ¥8,000 KAJIMOTO



チケットのお問合せ・お申込み：
カジモト・イープラス 0570-06-9960
<http://kajimotoeplus.com/>